

出生数、初の70万人割れ

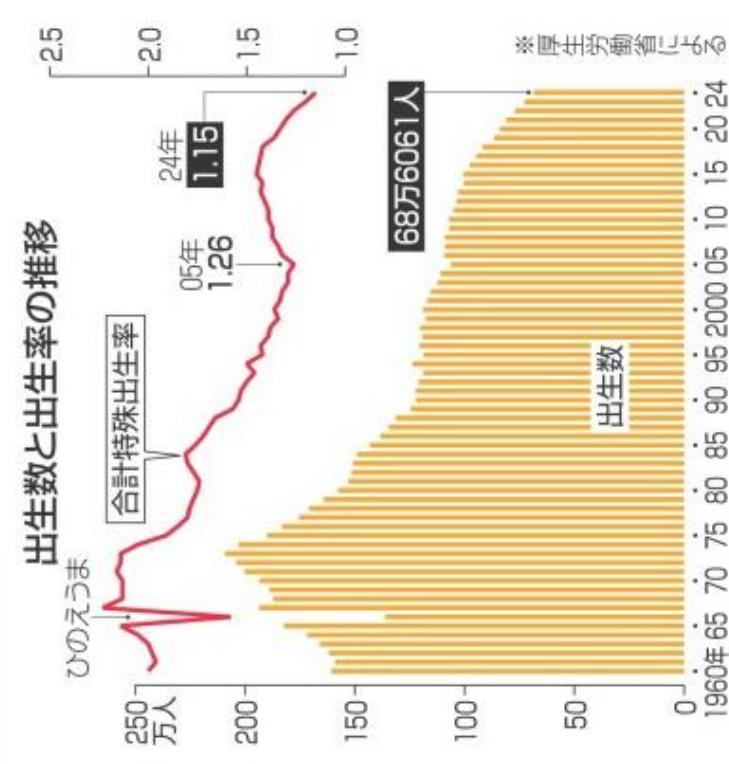
24年 出生率1.15、最低更新

① 2024年に生まれた子どもの数（出生数）は68万6061人で、1899年の統計開始以降初めて70万人を割り込んだ。23年比4万1227人（5.7%）減。全都道府県で減少した。② 女性1人が生涯に産む子どもの推定人数「合計特殊出生率」は1.15で、23年の1.20を下回り、過去最低を更新した。都道府県別では東京だけが1.00を切り、0.96だった。晩婚・晩産化などが影響した。出生数、出生率ともマイナスは9年連続。少子化は政府推計より15年早く進んでおり、反転の兆しは見えない。（2面に関連記事）

厚生労働省が4日公表した人口動態統計（概数）で明らかになった。今後の出生数に影響する婚姻数は1万3222組増の48万5063組で、2年ぶりに増加したものの依然低迷している。平均初婚年齢は男性31

・1歳、女性29.8歳。女性が第1子を出産する平均年齢は、過去最高だった23年と同じ31.0歳だった。死亡数はこれまでで最多の160万5298人で、出生数との差に当たる「自然減」は過去最大の91万9

237人。自然減は18年連続で、人口減少も加速している。



厚労省の担当者は「急速な少子化に歯止めがかからない危機的状況」と指摘し

「結婚や出産、子育ての希望を阻むさまざまな要因が複雑に絡み合っている」と分析した。物価高で経済不安が高まったことも影響したとみられる。

出生数は第1次ベビーブームの1949年（約269万人）がピークだった。第2次ベビーブームの■年（約209万人）以降は減少傾向となり、2016年に100万人、22年に80万人を割った。国立社会保障・人口問題研究所の将来推計（中位推計）では、68万人台になるのは39年と見込んでいた。

出生率は1947年から統計を始めた。2024年は福井を除く46都道府県で下落。人口の一極集中が進む東京は23年の0.99を下回り、過去最低を更新した。宮城1.00、北海道1.01の順に低かった。最高は沖縄の1.54で、福井1.46、鳥取、島根、宮崎の各1.43が続いた。兵庫は1.23だった。

上の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

- 傍線部①68万人台になるのは、将来推計では何年と見込んでいましたか。

年
- 傍線部②について、人口1億人の国で、女性1人が生涯に産む子供の推定人数が1.0人の場合、1世代(30年)後の人口は、約何人になりますか。

人
- 空欄に数字を入れましょう。

NIEワークシートのこたえ（2025年6月5日公開）

◆ワークシート「出生数70万人割れ(社会)」
2025.6.5付 朝刊 1面 解答

1 39 年 （2039 年）

2 5000万 人

3 73 （1973）